

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101158		
法人名	医療法人社団 青寿会		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	山口県下関市武久町2丁目53番8号		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町受理日	令和3年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年1月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

武久医療福祉グループの中にあるグループホームです。ご利用者の状態に合わせて、医療・福祉の専門家がサポートできる体制が整っています。ご利用者一人ひとりの生活を尊重し、安心できる環境作りに取り組んでいます。各居室には、トイレと洗面所を設置しています。家具などは馴染みの物をお持ちいただき、自分らしい空間で生活できます。3食の食事は、食堂横のキッチンにて調理します。献立には旬の食材やご利用者の好みを取り入れています。食事の準備や後片付けなど、ご利用者は能力に応じて出来る事を行い、生きがいにつながっていると考えられます。花見などの季節を感じられる行事や梅ジュース作り、干し柿作りなどご利用者が活躍できる活動も行っています。新型コロナウイルス感染症対策の為、ボランティアによる行事開催は中止していますが、職員がそれぞれの特技を活かしてコンサートや書道教室等を開催しています。ご家族との手紙や電話のやり取り、オンライン面会、短時間ではありますがガラス越しの面会等、ご家族との交流を大切にしています。ご利用者が生きる意欲を持てるよう、出来る事を工夫しながら取り組んでいます。併設病院の協力で、日常の健康管理、緊急時の対応も迅速に行えます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一人ひとりが、取り組みの中での気づきをそのままにされず、どうすればご利用者の生活がより良くなるか、楽しい時間を増やせるかなど、改善できることを前向きに考えられて提案され、実践されています。利用者の満足を得るため、毎日の献立の見直しが行われるとともに、コロナ禍の下、これまでのように外出支援や家族の面会等ができなくなったのを受け、法人職員の特技を生かしたギター演奏や歌のミニコンサートの開催、月担当職員を中心に企画された季節毎の行事、食事やおやつ作り、駐車場でのおにぎりランチ、花や野菜の苗の植えつけと収穫など、利用者が季節を感じられ、気分転換の時間が増えるように工夫しておられます。利用者毎に作られた「個別ノート」に、写真を多用されて、食事の内容や利用者の行事での様子、受診の状況等を記載され、利用者を担当する職員がコメントを添えられて、家族に面会時に見てもらったり、コピーを郵送するなどされて、家族に利用者の状況をわかりやすく伝えておられ、家族の安心にもつながっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、基本方針に加え、事業所の基本理念がある。玄関、事務所内に掲示してあり、いつでも確認できる他、ミーティングで振り返り、実践できるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、法人の理念と併せて事業所内に掲示している。2ヶ月毎の職員会議や年1回の自己評価時に、職員間で理念について話し合っ確認している。職員は利用者に笑顔で接し、利用者がゆったりと楽しみながら暮らせるよう支援に取り組んでいるなど、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策の為、外部からの訪問者の受け入れを中止している。ご利用者が地域の方と交流することは難しいが、地域の方との関係が途切れないように、ボランティアの方には、事業所の様子等をお知らせしている。	法人が自治会に加入している。例年、法人主催の海岸清掃や夏祭りや地域の人や法人職員、家族と交流していたが、今年は感染対策で中止となっている。1月、2月に傾聴ボランティアの来訪があって以降は、外部の人の来訪は中止している。地域の人から電子ピアノの提供を受けている。法人内の他部署の職員が来訪し、ギターや歌のミニコンサート、書道教室(書き初め)等を開催している。地域の人や関連施設職員から、おやつや花、野菜の差し入れを受けているなど、事業所職員以外の人との交流ができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談の際、認知症の人の支援に関するアドバイスをしたり、相談に応じることもある。要望に応じて地域で開催される講座で認知症について伝えることもある。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で行うことで、振り返りの良い機会になっている。自己評価、外部評価の結果については、ミーティングにて共有し、改善が必要な内容については、検討し実践につなげるよう努めている。	管理者が職員に評価の意義を説明し、評価のための書類を全職員に配布し、記入したものをまとめている。職員は評価を日々のケアの振り返りの機会と捉えている。外部評価結果を受けて、応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施を目標達成計画にあげ、「急変時対応マニュアル」を活用して、項目毎に看護師を講師として、年間を通して延べ18回実施するなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、ご利用者の状況、行事、インシデントやアクシデントの報告を行っている。新型コロナウイルス感染症対策の為、今年度は書面開催となっているが、委員からの質問をもとに業務の見直しを行ったりもしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、業務報告(利用者の状況や行事報告)、インシデント・アクシデント報告、研修報告、自己評価や外部評価結果などを報告し、情報交換や介護予防や身体拘束などの勉強の機会としている。同時に「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を開催し、身体拘束に関する事例について報告している。この1年はコロナ感染対策として、3月から書面報告とし、委員に運営状況等を書面や電話で報告し、意見を求めている。委員から、新型コロナ対策としての面会制限について質問があり、家族にも面会制限について、文書での説明に加え電話でも個別に説明を行うなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、書類提出時や電話にて相談したりし協力関係を築くようにしている。地域包括支援センターの職員とは、電話にて情報交換をしたりしている。	市担当者とは、運営推進会議参加時や書類提出時に出向いたり、電話、ファックス質問票などで相談し助言を受けたり、情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時に情報交換をしたり、法人の地域連携センターを介して相談して助言を受けるなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修や事業所内での勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒や離設のリスク軽減のため、人感センサーやベッドコール等を使用しているが、声掛け等が拘束につながらないよう配慮しながら対応している。	職員は、法人の抑制防止委員会資料研修や身体拘束、高齢者虐待の内部研修で学んでいる。参加できなかった職員には資料を回覧している。運営推進会議と併せて開催する「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」で検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外に出たい利用者に気づいたときは、職員と一緒に散歩に出かけたり、畑仕事をするなど、気分転換の工夫をしている。スピーチロックで気になるところは、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修、事業所内の勉強会を実施している。職員が各自で「自己点検シート」の記入を行い、普段のケアを振り返る機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料回覧や勉強会のテーマにあげたりし、理解を深めるようにしている。必要があれば、専門家に相談し支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居の際、理解・納得していただけるまで説明するように心がけている。入居中もご家族の不安や疑問について丁寧に説明するようにしている。入居中に利用料金の変更等が発生した場合は、説明をし、同意書をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内、協力病院内に苦情相談窓口を設置している。ご意見箱も設置しており、苦情や相談に対応できる体制を整えている。普段からご家族に要望等を確認するようにしている。「ご利用者満足度調査」の結果をもとに改善に取り組んでいる。	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きなどを、利用者や家族に説明している。意見箱を設置している。運営推進会議参加時や面会時、電話等で家族からの意見や要望を聞いている。利用者毎に「個別ノート」づくり、利用者を担当する職員が行事での様子や受診の状況等を記載して、面会時に見てもらったり、コピーを郵送するなどして、家族に利用者の状況を伝え、意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。家族から、利用者に食べさせたい、着せて欲しい物がある等の希望があり、その都度ケアの中で対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務の中で、職員の意見や提案を管理者が聞き、それをもとに業務手順の見直し等を行っている。事業所内で解決できない提案については、法人内の担当部署へ提案している。	2ヶ月に1回の職員会議や日常業務の中で職員の意見や提案を聞いている。職員会議やカンファレンス(年4回)は、事前に気づきや意見をノートやカンファレンスメモに記入して、話し合いが充実したものになるよう工夫している。月担当職員を定め、その月ごとのレクリエーションの企画を進めたり、職員の意見から、浴室床にマットを設置したり、入浴介助用のスリッパを変更するなど、意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が能力に応じた個人目標を立て、達成できるように取り組んでいる。年2回の人事考課により各職員の業務への取組み方等について評価し、個人面談も実施している。体調や家庭の事情等、必要に応じて勤務調整等を行い、働きやすい環境整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のe-ラーニング研修を各自受講し、研修内容について職員で意見交換することもある。事業所内でも接遇研修、身体拘束に関する研修、認知症研修、緊急時対応研修等を実施している。 全職員が学ぶ機会がもてるように事業所内の勉強会は同じ内容で複数回実施している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望と段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供して、勤務調整で参加できるよう配慮している。今年度は山口県宅老所・グループホーム協会ブロック学習会のオンライン学習会(2回)や、下関市主催「老人福祉施設等における感染症対策」に参加している。法人研修は、コンプライアンス、感染対策をテーマにしたeラーニング研修を受講し、資料研修として抑制研修を受講している。内部研修は年6回、職員会議時に接遇、認知症、高齢者虐待、身体拘束について実施している。急変時対応マニュアルを活用した緊急時対応研修を、看護師が講師となって年間を通して実施し、転倒・転落、誤嚥・窒息、血圧、頭痛、胸痛など項目毎に学んでいる。新人は法人で2日研修した後、新人職員マニュアルに沿って、日常業務の中で管理者や先輩職員が指導している。法人として資格取得について、勤務日程の調整、費用の支援などを行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会に加入しており、協会主催の勉強会に参加している。現在は会場に集まったの勉強会開催が困難な為、オンライン研修に参加している。他事業所の職員と電話にて情報交換することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時面接の際、ご本人との会話の中から困っていることや要望を確認するようにしている。ご家族からの情報を声掛けや会話に活かすようにしている。会話する機会をなるべく多くもち、信頼関係を築くことができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、入居時面接の際、要望等を確認しているが、直接要望を言われるご家族は少ないため、会話の中からもご家族の思いをくみ取ることができるように努めている。また、要望を言いやすい雰囲気を作れるようしっかりコミュニケーションをとるように心がけている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所で提供できるサービスについてご家族に説明し、将来的に他のサービスが必要になる可能性があることについても説明している。必要があれば、他のサービス担当者からご家族へ説明することも可能である。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人ができることを把握し、可能な範囲で家事等に参加してもらっている。また、暮らしの中でご本人にアドバイスを求めたりしている。共通の話題で考えあったり、笑いあったりして関係を築いている。ご利用者が他のご利用者に声を掛けたり、支援しようとしていたりしている場面を見ることもある。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ面会時や電話にてご本人の様子を伝えるようにしている。連絡ノートに写真を添付し、普段の表情を伝えるようにしている。来所が難しいご家族には、連絡ノートをコピーして郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染対策の為、面会や外出を制限しているため、友人、知人等との関係が途切れないように、電話や手紙のやりとりを支援している。	2月までは家族の面会や親戚、友人、知人の来訪があり、友人の協力を得て日曜礼拝で教会に出かけたり、家族の協力を得て一時帰宅や外出に出かけていた。3月以降は面会の制限をしている為、ガラス越しの面会や、電話、ビデオ通話、写真入りの手紙、教会の動画配信の利用など、工夫して交流を図り、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や相性等を把握するように努め、座席の配置に配慮している。居室内や廊下ベンチでご利用者同士がゆっくりと会話できる機会を作ったり、必要に応じて職員が介入しながらご利用者同士の関係が築けるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も退居先の病院や施設の職員と連絡を取り、必要に応じて情報提供を行ったりしている。 可能であればご本人に面会することもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員でご利用者の思いや暮らし方の希望や意向を会話等の中から把握するように努めている。希望や、意向をご自分で伝達することが難しい場合は、ご本人の言葉やご家族からの聞き取り、身体状況、精神状態を見極め、本人本位で検討している。	入居時に家族にセンター方式のシートに生活歴や意向を記入してもらっている他、日々の関りの中の本人の表情や会話からくみ取ったこと、気づいたことを「介護記録」に記録して、思いや意向の把握に努めている。利用者を担当する職員がカンファレンスメモに本人が良い表情になることや行きたいところ、やってみたいことなどを記入して、カンファレンスで検討している。カンファレンスは全職員が参加できるように、同じ内容で2回開催し、職員間で共有している。困難な場合は家族から情報を聞くなどして本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から聞き取ったり、生活歴等を記入してもらったりしている。 入居前に利用されていたサービス担当者からの聞き取りにて把握する場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子や心身状態等、ケア記録に残している。普段と違う様子や気づき等があった場合は、申し送り簿にも記載し、職員間で情報共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づき等をもとに、課題や支援方法等について検討している。ご本人の思いをくんだり、ご家族の希望も確認しながら介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、必要があれば計画を変更している。 必要があれば医療スタッフの意見を求めることもある。	全職員がカンファレンスメモに日頃のケアの中で気づいたことや本人の希望などを記入して、年4回、カンファレンスを開催している。計画作成担当者や利用者を担当する職員が中心となって話し合い、主治医や看護師の意見を参考にし、本人や家族の意向を反映させた介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行い、年1回、見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況について毎日記録に残している。ご利用者の状況に応じて計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事等で必要な時には勤務者を増やす等調整をしている。退院時の迎えや通院支援等ご家族が対応困難な場合は要望があれば可能な範囲で支援することもある。 面会が困難な状況に対応するため、オンライン面会も開始した。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパー等へ職員と一緒に買い物に行くこともあったが、現在は新型コロナウイルス感染症対策の為実施していない。 教会へ出席していたご利用者も現在出席は難しいが、手紙や電話でのやりとりを支援したり、教会の広報誌への掲載記事の為にインタビューを職員が代行したりすることもあった。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人及びご家族の希望により決定している。協力病院が併設しており、24時間対応可能であることもあり、協力病院をかかりつけ医とすることがほとんどである。協力病院への受診は職員が付き添い、受診結果や経過はご家族に報告している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、事業所が受診の支援をしている。協力医療機関の看護師が週3回来訪して健康チェックを行い、職員の相談にのっている。受診時はバイタル表を持参し、情報提供している。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。受診結果は家族には電話や個別ノートで報告し、職員間では、申し送り簿に記入して申し送り時に報告して、職員間で情報を共有している。休日や夜間の緊急時は協力医療機関の24時間対応があり、主治医や看護師と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回、協力病院の看護師の訪問がある。看護師訪問時に、ご利用者の状態を報告している。 日常の関わりの中で気づいたことは、その都度協力病院の看護師へ報告し助言をうけている。必要な時には、適切な受診がスムーズに受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から協力病院の入退院管理室と連携し、入院が必要な場合にスムーズに支援できるように備えている。ご利用者が入院した場合は、面会に行ったり、病院スタッフと情報交換を行いながら、状態安定後、早期に退院できるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方針について説明している。状態の変化があった場合は、その都度ご家族に報告し、意向を確認している。必要があれば、協力病院の医師や看護師を交えて話し合うことも可能である。 ご家族の希望を確認しながら、法人全体でご利用者の状態にあった環境を提供できるよう支援している。	契約時に「ご利用者様の医療面での対応に係る指針」に沿って、重度化した場合や終末期に向けて事業所でできる対応を、移設も含めて本人や家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族の意向を尊重し、早い段階から主治医や看護師等関係者と話し合い、方針を決めて共有し、関連施設と連携して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時は、「インシデント報告書」を作成し、法人内の医療安全委員会に提出している。報告書の内容は職員全員で共有している。事例については、対応策について職員間で検討し、再発防止に努めている。急変時対応の勉強会を定期的に行い、実践力を身につけるよう取り組んでいる。「急変時対応マニュアル」を作成しており、全職員が手順を確認できるようになっている。誤薬防止の為、ご利用者に薬が処方された時は、全職員で処方内容を確認するようにしている。与薬時は、必ず職員2名で確認するようにしている。	事例が生じた場合は、その場の職員が話し合い、インシデント報告書に、発生時の状況や要因、対応などを記入し、法人の医療安全委員会に報告して対応策を再検討している。委員会の助言を受けて職員会議で話し合い、介護計画に反映して、一人ひとりに応じた事故防止に努めている。年1回AEDの使い方の手順の確認をし、誤嚥時の対応の訓練をおこなっている。急変時対応マニュアルを活用して、転倒・転落(5回)、誤嚥・窒息(3回)、血圧(5回)、頭痛、胸痛(5回)など項目毎に学んでいるが、すべての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回隣接施設、病院と合同で消防避難訓練を実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為、事業所職員と病院職員3名のみでの参加で実施した。実施時には、マニュアルの見直しを行っている。施設付近に民家が少ないため、地域住民の協力は得にくい、法人職員の協力が得られるよう整備に努めている。	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為、年2回、事業所職員と病院職員のみが参加して、消防訓練、避難経路の確認と通報訓練を行っている。実施時には、マニュアルの見直しを行っている。地域や隣接の病院、施設の職員と、災害時の協力体制が十分であるとはいえない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるご利用者への言葉かけは、ご本人が不快な思いをしないように配慮している。声の大きさや会話の内容についても注意している。ご本人が好まない話題についても配慮するようにしている。	職員は利用者を年長者として尊敬の念を持って接し、一人ひとりの状態や性格に合わせた言葉かけをして、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。不適切な対応など気づいたところがあれば、管理者が指導している。記録物など個人情報の取り扱いに注意し、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、ご本人の希望を確認している。ご自分から希望を言うことが難しい方には、普段の言動や表情等からくみ取るように心がけている。職員は、なるべく先入観をもたず、その時の気持ちを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間等、ある程度の予定は決まっているが、ご本人の体調や気分、希望によって柔軟に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人で更衣をすることが難しいご利用者の支援を行う場合は、ご本人の希望を確認しながら服を一緒に選んでいる。安全性に配慮しながらもご本人に馴染みのある服装で過ごしていただけるように支援している。定期的な美容師の訪問により、カットを行っている。好みの髪型になるよう、ご本人が希望を伝えられない場合は、職員が美容師との会話を支援することもある。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食ホーム内で調理している。ご利用者の希望や旬の食材を取り入れながら職員が献立を立てている。可能な範囲で調理、盛り付け、食器洗い、台拭き、トレイ拭き等をご利用者と一緒にしている。行事食やおやつ作りにも力を入れている。	三食とも事業所で調理している。年1回法人の栄養士に相談し、利用者の好みを聞いて職員が輪番で献立を立てている。利用者は職員と一緒に、下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器洗い、トレイ拭きなどできることをしている。月担当職員が企画して、おせち、鏡開きの白玉ぜんざい、恵方巻づくり、豆まき、バレンタインデーのおやつづくり、ひな祭りのちらし寿司、花見弁当、七夕そうめん昼食会、敬老会の祝い膳と職員手づくりの紅白まんじゅう、お月見弁当、鍋、クリスマスのワンプレートランチなどの季節の料理や誕生日会のおやつやケーキづくり、昼食づくり(にぎり寿司、コロッケ、おにぎり弁当ランチ)、おやつづくり(フルーツポンチ、ケーキポップ、3色おはぎ、桜餅、菓子パン、ちまき、ピザ、スコップケーキ、七夕ゼリー、抹茶団子ソフト、かぼちゃモンブラン、台湾スイーツ豆花、肉まん、杏仁豆腐、アップルパイ、干し柿、など)を楽しんでいる。家族からの差し入れを食べてもらう機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態に合わせて量や形態を調整している。食事摂取量や水分摂取量を確認し、摂取量が少ない場合は、代替品や嗜好品の提供等も行っている。栄養状態等について法人内の管理栄養士のアドバイスをうけることもある。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。ご本人の状態に合わせて、声掛けや介助を行っている。 異常がみられる場合は、協力病院の歯科を受診できるように支援している。定期的に歯科にて口腔ケアを受けているご利用者もいる為、職員が送迎を行っている。 口腔ケアの方法や注意点等、協力病院の歯科衛生士から定期的にアドバイスを受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。 排泄の訴えやサインには常時気を付けている。 必要に応じて、時間毎にトイレに案内することもある。	排泄表を活用してパターンを把握し、本人の発するサインを見落とさないよう意識して支援している。適切な物品の使用を検討し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事や水分補給を心がけている。体操や散歩で運動を促している。 慢性的な便秘の場合は、主治医と相談し、緩下剤を使用することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、15時から17時に入浴を実施している。ご本人の希望を確認しながら、1日おきに入浴できるよう支援している。希望があれば毎日入浴することもできる。入浴しない日は清拭を実施している。 体調不良等で長期間入浴できない場合は、足浴やドライシャンプーも実施し、清潔の保持に努めている。	入浴は毎日、15時から17時まで、1日おきに入浴できるよう支援している。利用者が希望すればいつでも入浴できる。入浴の順番やお湯加減、好みのボディソープやシャンプーなどの使用、季節の柚子湯、職員と一緒に歌をうたったり、ゆっくり1対1で話をするなど、一人ひとりが入浴を楽しむことができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴、足浴、ドライシャンプーなどの支援をしている。入浴したくない人には時間や日を変更したり、誘う職員を替わる、入浴に誘う前の時間の過ごし方を工夫するなど支援をしている。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に居室で休息できる他、廊下のベンチや居間の椅子、ソファ等、好きな場所でくつろぐことができる。 居室の寝具は、ご本人が好みの物を使用していただいている。 夜間、眠れない場合は、職員が話を聞いたり、温かい飲み物を提供したりし、気持ちが落ち着くように支援している。 不眠が続く場合は、必要に応じて主治医や専門医に相談している。			
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際は、職員全員が薬の説明書を確認するようにしている。与薬時は必ず職員2名で確認し、誤薬防止に努めている。 状態変化があった場合は、すぐに協力病院の看護師、主治医に報告している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時やご家族面会時に生活歴や好みの活動等について確認している。 ご利用者の状態に合わせて、掃除、洗濯、調理等家事の場面で役割が持てるように支援している。 おやつ作り、塗り絵、生け花等、趣味や特技に合わせて参加できるように支援している。	書初め、手作りおみくじ、節分会での恵方巻き作りやゲーム、ひな祭り昼食会、夏祭り(縁日ゲーム)、十五夜お月見会(お月見弁当、抹茶と和菓子、着物の着付けショー、職員の手品)、敬老会、(2月まで)家族も参加するお誕生会、おやつ作り、干し柿作り、テレビやビデオの視聴、歌を歌う、ギターや歌のミニコンサート、雑誌を読む、カラオケ、ぬり絵、貼り絵、折り紙、カルタ取り、坊主めくり、トランプ、計算、しりとり、ことわざ、毎日の体操、ダンベル体操、嚙下体操、早口言葉、ハンドマッサージ、生け花、生け花の水替え、絵手紙、点字で歌詞カードを打つ、紙芝居、本の読み聞かせ、雑巾や布巾を縫う、花壇の植付や水やり、草取り、野菜の収穫、食事の準備や片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップ掃除、手すり拭き、枕カバー替えなど、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、自由に外出することは難しくなったが、ホーム周辺を散歩したりして気分転換ができるように支援している。	1月に初詣(中山神社)に出かけて以来、感染予防のため、デイサービスとの共用の外出用の車が使用できなくなった。事業所周辺散歩、桜の木の下での昼食会、駐車場でのおにぎりランチ、花の苗の植え付け、花壇での野菜の植え付けや収穫など、事業所周辺で楽しむことができるよう工夫している。2月までは家族の協力を得ての一時帰宅や外食などを支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解が得られる場合は、高額ではない金額を自己管理していただいている。自己管理が難しい場合は、事業所にて個別に預かり、ご本人の希望に応じて欲しい物を購入できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある時は、職員と一緒に電話をかけ、会話できるように支援している。ご家族にもいつでも電話で会話ができることを伝えている。ご本人が携帯電話を持っている場合は、操作を支援している。ご家族や友人との手紙のやりとりも職員が手伝って行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内が適切な温度、湿度になるように配慮している。室内の明るさも電灯やカーテンの開け閉めで調整し快適に過ごせるように配慮している。季節感のある展示をしたり、季節の花を飾ったりし、季節を感じられるように取り組んでいる。 アロマランプを炊いたり、写真の掲示、観葉植物の設置等も行い、快適な空間作りに取り組んでいる。	食堂兼リビングは、天窓からの自然光や大きな窓からの陽ざしで明るく、広々としている。一角の畳の部屋には掘りごたつがある。壁には利用者と職員と一緒に作った干支の牛の貼り絵を飾り、毎月の行事の写真に掲載した「しおさいアルバム」を掲示して、利用者や来訪者とのコミュニケーションに使っている。観葉植物や季節の花で季節感を取り入れている。食卓やソファ、大型テレビなどを配置し、廊下のベンチなど利用者が思い思いの場所でくつろげるよう配慮している。台所からは調理の音や匂いがして生活感がある。温度や湿度、換気に留意して利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の椅子やソファ、廊下のベンチ等、思い思いの場所で自由に過ごすことができる。気の合ったご利用者同士で居室を行き来する場面も見られる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や大切にしているものを持ち込んでいただき、なるべく馴染みの空間に近づけられるよう工夫している。ご家族と一緒に撮った写真を壁に貼ったり、ご本人と相談しながら居心地の良い雰囲気作りに取り組んでいる。	ベッド、ダンス、テレビ、ソファ、椅子、ソファ、スツール、仏壇、時計、本、雑誌、琴など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族の写真やぬいぐるみ、観葉植物、造花、カレンダーなどを飾って、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室にトイレと洗面所が設置してあり、利用できるように職員が支援している。居室の場所がわかりにくい場合は、目印となるものを設置したり、張り紙をしたりしている。建物内に段差はなく、廊下も十分な広さを確保している。また、廊下には手すりを設置しており、安全に移動することができる。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム しおさい

作成日: 令和 3 年 6 月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や初期対応の訓練を行っているが、継続して行い、全職員が実践力を身につける必要がある。	応急手当や初期対応の定期的な訓練により、全職員が実践力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対応の定期的な訓練、勉強会を実施する。</li> <li>・緊急時対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知する。</li> <li>・職員が主体的に取り組めるよう勉強会の内容を見直す。</li> </ul>	12ヶ月
2	36	災害時、地域の協力体制が十分ではない。	災害時に備えて地域との協力体制を築く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内の他施設と合同にて災害時避難訓練を実施する。</li> <li>・災害時対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知し、法人内の関係部署にも周知する。</li> <li>・運営推進会議へ災害時対応について現状を伝え、必要に応じて協力を依頼する。</li> </ul>	12ヶ月
3	20	新型コロナウイルス感染対策の為、家族と一緒に過ごす時間がなかなか持てない。生活の様子が家族に伝わりにくい。	家族と交流する時間を持つことができる。家族との情報共有がスムーズにできる仕組みを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン面会、電話、手紙等にて家族との交流機会を増やす。</li> <li>・家族への情報提供の方法を見直し、手順を作成する。</li> </ul>	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。